

1. 研究発表

太平洋北上期イカ類漁場調査結果

—夏期, 北海道南部太平洋海域に分布するスルメイカの異なる2回遊群

中 田 淳 (釧路水試)

* 村 上 幸 一 (函館水試)

1982年および1983年7月に、函館水試試験調査船おやしお丸で、北海道南部太平洋海域のスルメイカの漁獲試験と海洋観測を実施した (第1図)。

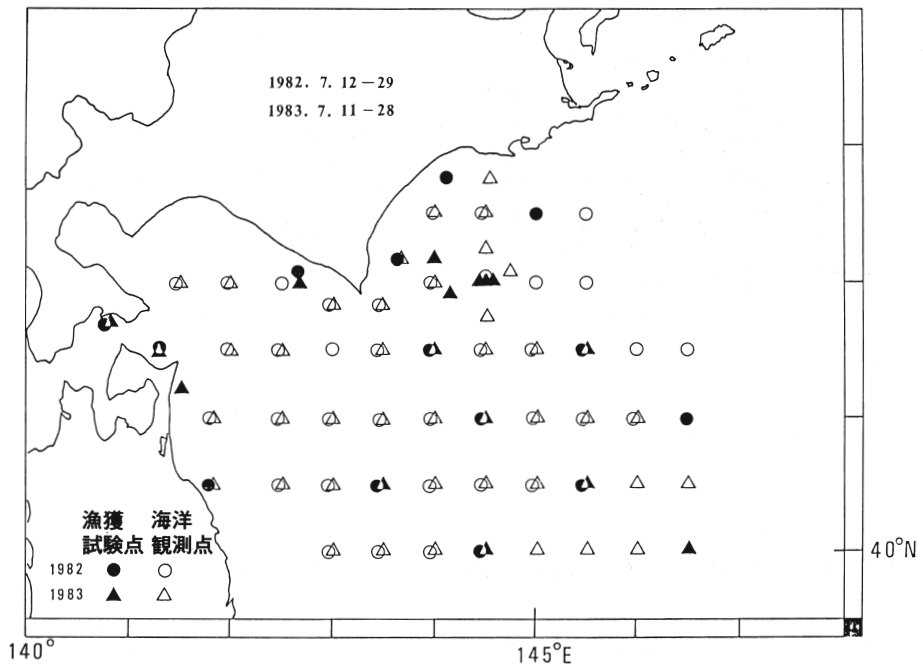


図1. 太平洋北上期イカ類漁場調査 調査点図

調査点毎に標本を採集し、外套長・性別・成熟度・生殖腺重量などを調べ、海域による違いを検討した。

※ 現函館水産試験場室蘭支場

その結果、両年共通して、エリモ岬以西海域には、小型で成熟度の高い群（以下小型成熟群と呼ぶ）が、一方、以東海域には、大型で成熟度の低い群（以下大型未熟群と呼ぶ）がそれぞれ認められ、両者の分布の境界域が、ほぼエリモ岬南～南西海域にあることがわかった（第2図）。

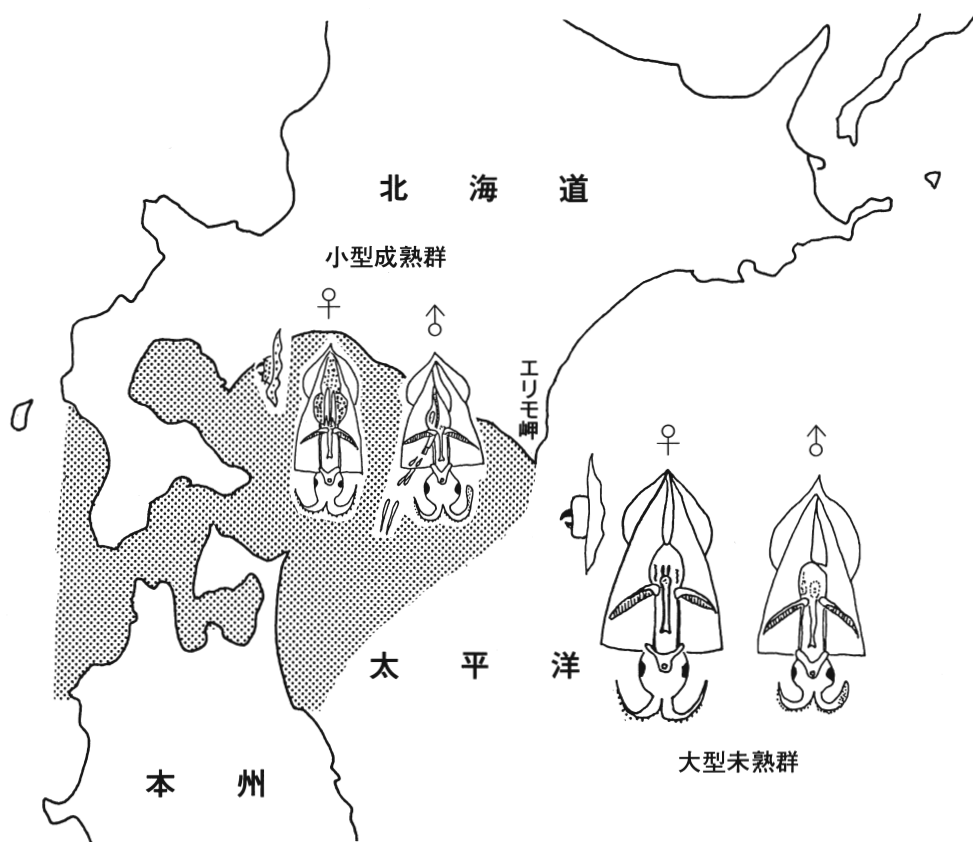


図2. 夏期、北海道南部太平洋海域に分布するスルメイカの異なる2回遊群の模式図

これを 100m 層水温分布図と関連させてみると、小型成熟群は、10℃以上の津軽暖流域に、大型未熟群は、5℃以上の黒潮北上暖水（暖水塊）域によく対応していた（一部、後者は、5℃以下の親潮域にも分布がみられた）。また、両回遊群の来遊豊度を、釣機1台1時間当たり尾数（C.P.U.E.）で比較すると、前者は後者に比べ低かった。

質疑：

笠原（日水研）：日本海での北上初期の群を対象にして1968年から1975年まで標識放流が行われた（青森水試・北水研・中央水試）。この結果によれば，5～6月の北上初期に津軽海峡西口で放流すると，多くのものが海峡内に移動し，中には太平洋側に抜けて行くという例が知られている。実際，これらはどういう生物学的特徴をもったものであるか不明であるが，今回の報告と関連して，小型成熟群・大型未熟群の補給源については触れないとのことでしたが，小型成熟群の日本海側起源という考え方についてどのように理解されているか？

中田：日本海津軽海峡西口付近で5～6月に標識放流したものの大部分は6～7月に津軽海峡に入り太平洋へ抜け出ることが知られています。しかし，この放流群の成長・成熟状態は不明で本報告の小型成熟群との関係については良く判りません。また，青森水試は近年，太平洋下北半島で夏に発生するローカル群が存在していると報告しています。しかし，これらについては十分検討しておらず，小型成熟群との関係は不明である。